

やっさもっさ (1953)

メディア 映画

ジャンル コメディ ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 105分

初公開日 1953/02/25

【解説】

渋谷実監督による「てんやわんや」「自由学校」に続く獅子文六作品の映画化。前二作同様、斎藤良輔が脚色を担当している。

志村亮子は横浜で慈善事業の混血孤児収容所〈双葉園〉の理事を務めていた。夫の四方吉はかつて優秀な実業家だったが、終戦とともに虚脱状態となり、今はパンパンの英文レターの代筆で小遣いを稼ぐ毎日。そんな四方吉はキャバレーを手伝うことになり、ふだん自分を馬鹿にしていた亮子のもとを去っていった。四方吉は自分を見込んでくれた新興財閥の武智のため、土地買収の交渉をした。交渉相手はドゥヴァルという外国人バイヤーだったが、彼は半金を受け取るとそのまま海外へ逃げてしまった。土地はすでによそに売却済みだったのだ。

【クレジット】

監督 渋谷実

製作 山本武

原作 獅子文六

脚本 斎藤良輔

撮影 長岡博之

音楽 黛敏郎 Toshiro Mayuzumi

出演 淡島千景

佐田啓二

桂木洋子

小沢栄

東山千栄子

倉田マユミ